2016年6月19日

ボークについて

連盟審判部長　　西　正康

春の審判講習会におきまして、ボークについてご説明をしましたが、最近になって一部の審判部員の方の間で『ボークは全て取らなくて良い。と理解されているようだ』との話が聞こえてきました。

私の説明が言葉足らずだったのかもしれません。

『全く取らなくて良い』という点が私の思いと多少違っていますので、市スポ少大会・夏季大会とシーズンが本格化する前に審判部員全員で今一度意思統一を図りたく、再度ご説明します。

結論は『ボークは全て取らない』ではなく、誰が見ても明確にボークとわかる動作については発生と同時に取ってください。

例をあげると、

①セットポジションに入ろうとした投手がボールを落としてしまった

②ピッチャーズプレートを外さずに1塁または3塁へ欺投した

などです。

あいまいでボークと疑われるような動作・行為についてはその場では流し、攻守交代時や試合終了後に監督立ち会いのもとで本人に対象となった動作はボークであること（あるいはボークを取られる可能性が高いこと）を説明・指導してください。

前述のように対応するためにも

公認野球規則　　6.02　投手の反則行為（ａ）ボーク

の項を熟読いただき、どんな行為がボークなのか？ボークを取られない行為とはどういう動作を指すのか？について理解を深めてください。

（注：上記野球規則の項目番号は2016年度版の番号です）

以上です。

今後の練習試合などで実践され、経験を積まれるよう連盟審判部員皆さんのご健闘を祈っております。